

## 誘発脳波の解析

### 1-2) 加算データを解析する

収録時に作成された加算データ、もしくは再加算データを用いて、潜時や面積を算出します。  
算出した値を比較することによって、2つの試行や部位、または別の被験者との違いを見つけることができます。

#### < 操作の流れ >

比較する加算波形を表示する。  
波形上の縦軸値が反転していないかどうか確かめる。

解析区間を設定し、解析する。

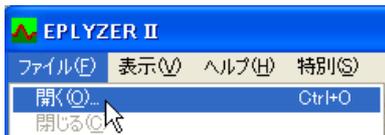
1. 解析区間テンプレートを用いて解析する
2. 手動で解析する

タブ領域内の解析結果をコピーし、表計算ソフトで加工する。

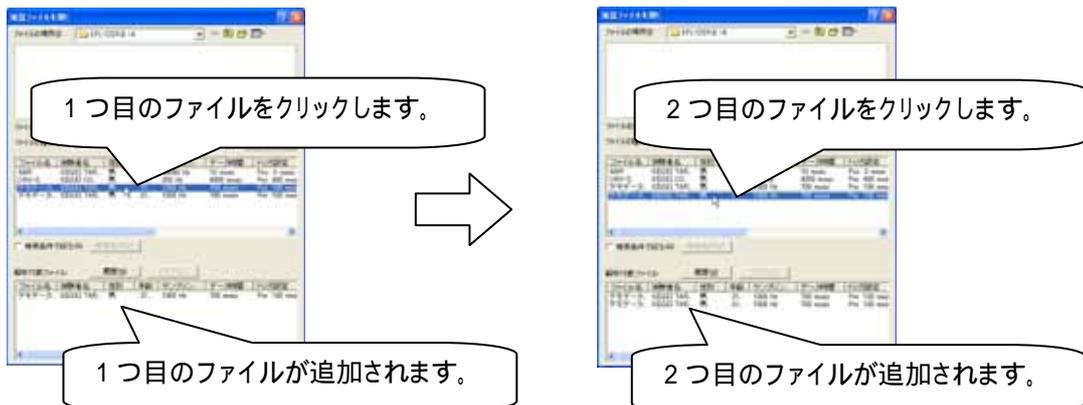
比較する加算波形を表示する。

例: 2つの加算波形を比較する場合

「ファイル」メニューの「開く」を選択します。



比較する2ファイルをクリックします。



波形上の縦軸値が反転していないかどうか確かめる。

加算波形が上下反転、極性反転していないかどうか確かめます。

詳しくは、3章 操作のワンポイント「2) 波形の縦軸が逆転したデータを、正常に表示するには」を御覧ください。

解析区間を設定し、解析する。

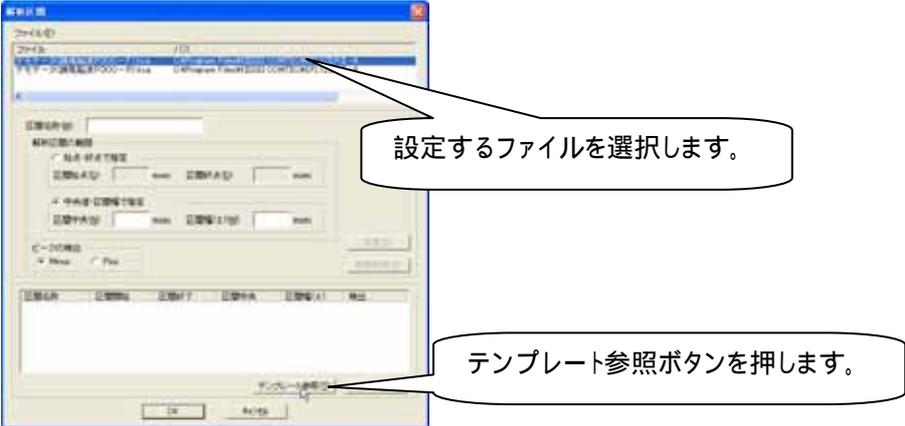
1. 解析区間テンプレートを用いて解析する

**注:テンプレートについて**  
解析範囲を定めたテンプレートを選択することで、解析作業の簡素化を行うことができます。毎回同じ解析区間の潜時や面積を算出する場合には、あらかじめ作成しておく便利です。  
EPLYZERII-A では P300 と ABR についてテンプレートを用意しており、下記の「解析区間」ダイアログからテンプレートを参照することができます。是非御活用ください。  
詳しい作成方法については、「3 章操作のワンポイント 4)解析区間のテンプレートを作成するには」を御覧ください。

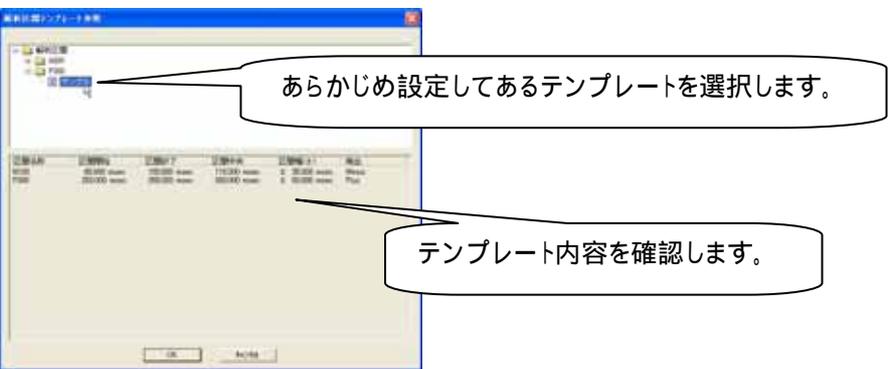
「コマンド」メニューの「解析区間の指定」を選択します。



「解析区間」ダイアログ上でファイルを選択し、「テンプレート参照」ボタンを押します。



「解析区間テンプレート参照」ダイアログ上でテンプレートを選択し、OK ボタンを押します。



「解析区間」ダイアログ上でテンプレート内容を確認し、OK ボタンを押します。

同様に、2 番目のファイルについてもテンプレートを選択します。



同様に 2 番目のファイルもテンプレートを選択します。

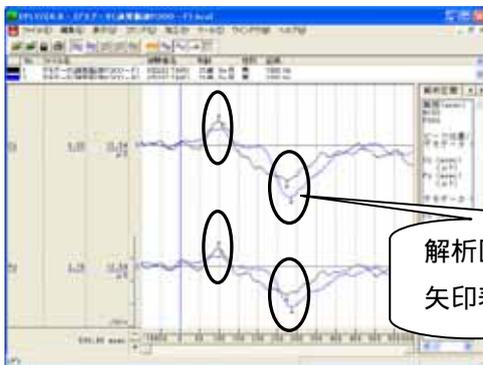
テンプレート内容を確認します。

ツールバーの「解析区間ピーク」ボタンを押します。



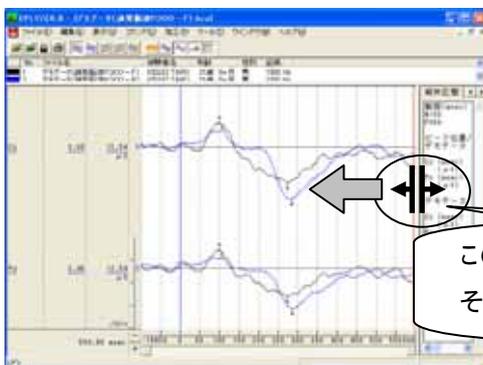
解析区間で検出されたピークを、矢印( )表示します。

また、検出されたピークについての潜時や電位は、タブ領域に自動的に算出されます。



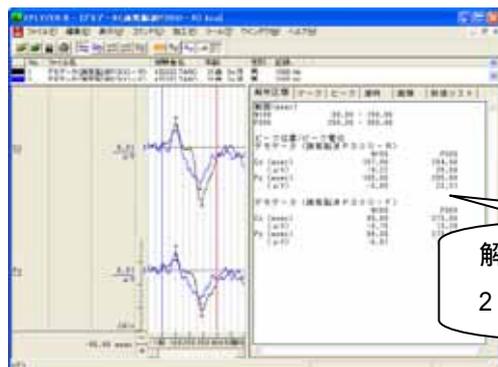
解析区間で検出されたピークを、矢印表示します。

タブ領域を拡大します。



この位置にマウスをあわせると、カーソルが  に変化します。そのまま左ボタンを押しながら、左方向にドラッグします。

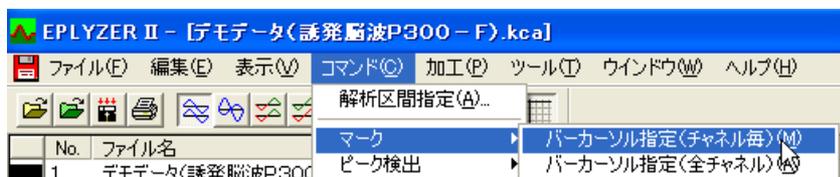
解析区間でのピーク時間とピーク電位が表示されます。



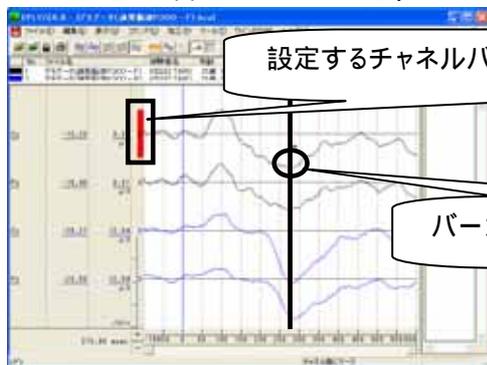
解析区間タブをクリックすると、  
2ファイル分のピーク時間と電位が表示されます。

## 2.手動で解析する

「コマンド」メニューの「マーク」から「パーカーソル指定(チャンネル毎)」を選択します。

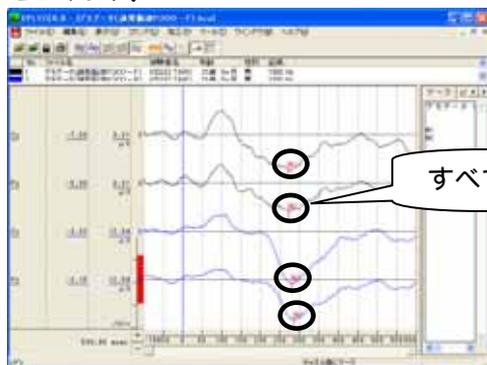


解析画面上で、マークをつけるチャンネルのチャンネルバーが赤くなっていることを確認して、特徴的な波形のピークにマウスを合わせクリックします。

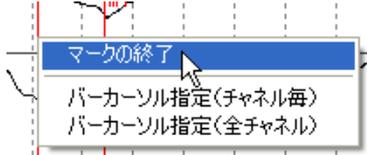


パーカーソルをピークに合わせてクリックします。

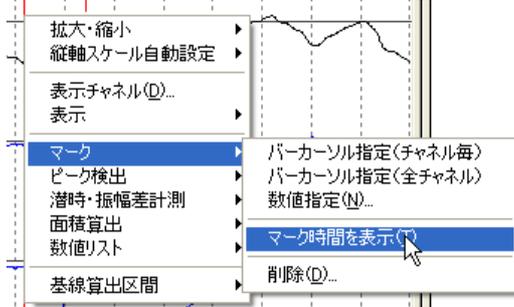
同様に、特徴的な波形のピークにマウスを合わせクリックすることで、すべての特徴的な波形のピークにマークをつけます。



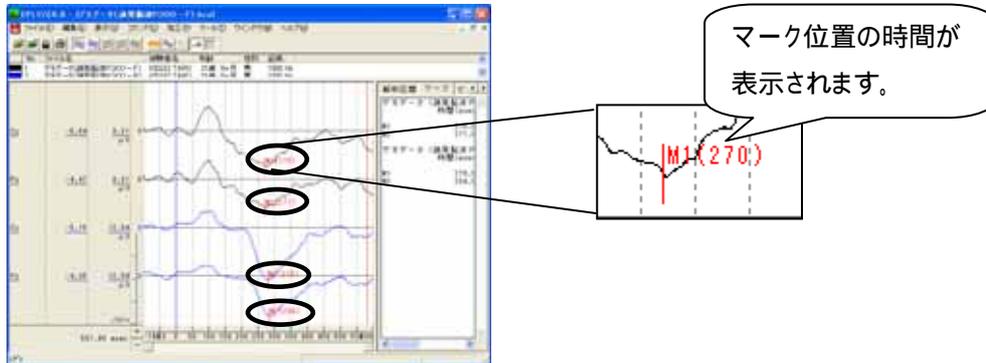
マークをすべてつけ終わったら、解析画面上で右クリックして「マークの終了」を選択します。



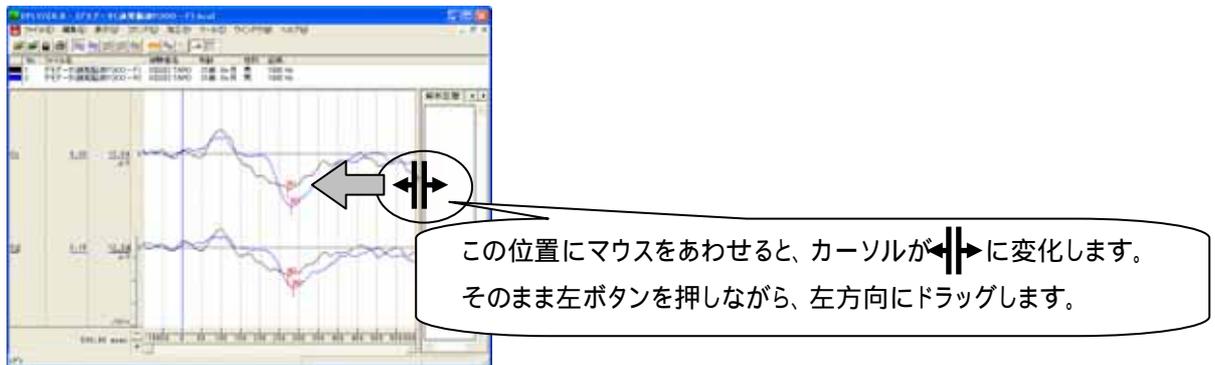
再び解析画面上で右クリックして、「マーク」から「マーク時間の表示」を選択します。



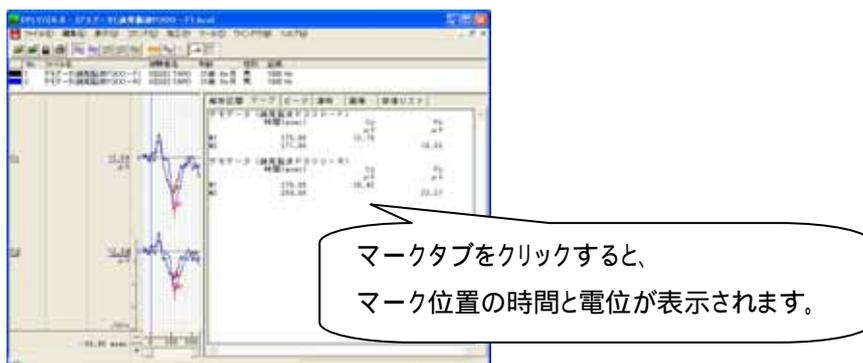
マーク位置の時間が表示されます。



タブ領域を拡大します。



マーク位置の時間と電位が表示されます。



## EPLYZERII-A を使用した解析手順

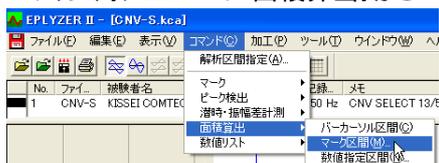
解析するコマンド処理を選択します。

例: CNV の面積を算出する場合

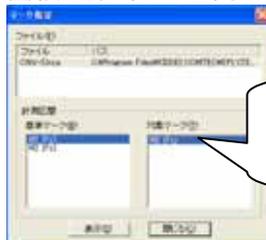


マーク1とマーク2の間で面積を求めます。

「コマンド」メニューの「面積算出」から「マーク区間」を選択します。

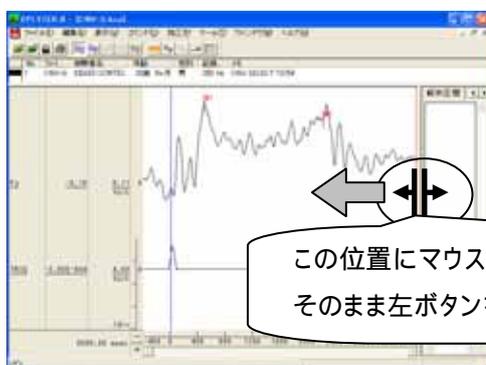


面積を算出する区間を選択し、「表示」ボタンを押します。その後、「閉じる」ボタンを押します。



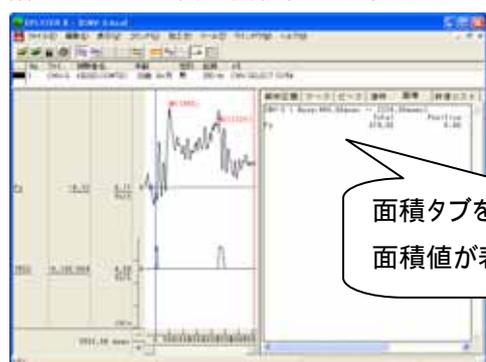
基準にマーク1(M1)、  
対象にマーク2(M2)を選択します。

タブ領域を拡大します。



この位置にマウスをあわせると、カーソルがに変化します。  
そのまま左ボタンを押しながら、左方向にドラッグします。

指定したマーク間の面積値が表示されます。



面積タブをクリックすると、  
面積値が表示されます。

タブ領域内の解析結果をコピーし、表計算ソフトで加工する。

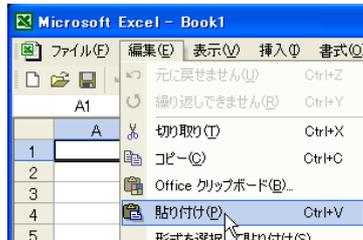
タブ領域内で右クリックして、「すべて選択」を選びます。



タブ領域内が選択された(色反転している)ことを確認し、再びタブ領域内で右クリックして、「コピー」を選びます。



表計算ソフト(例: Excel)を起動し、「貼り付け」を選びます。



タブ情報が表計算ソフトに表示されました。表計算ソフト上で、値を比較するため加工します。

	A	B	C
1	範囲(msec)		
2	N100	80.00 - 150.00	
3	P300	250.00 - 350.00	
4			
5	ピーク位置/ピーク電位		
6	デモデータ(誘発脳波P300-R)		
7		N1	P300
8	Oz (msec)	107	284

